

国家試験に全員合格

連続4年 「地域や職場に貢献」

弘前市医師会看護専門学校看護専門課程看護学科を今春卒業した3年生36人が、2月に行われた看護師国家試験に全員合格した。合格率100%は4年連続で、学科として初の快挙に沸いている。合格

弘前

発表日の24日、弘前総合保健センター内にある学校に集まった卒業生は、全員の合格を確認して喜びを分かち合った。卒業生の大半は4月から県内で働き、地域医療を支えていく。(石田紅子)



36人全員の合格を確認し「やったー」と喜ぶ学生と教員ら

看護学科は2年課程夜間業が必要。日中は病院など定時制のため、3年間の修で働きながら通う学生が多

い。今年の試験は2月12日に実施。厚生労働省によると全国の合格率は90・8%だった。合格者の受験番号は24日に同省のホームページ上に掲載され、学生らが36人全員の合格を確認すると、教室に歓声が響いた。学生の中で最年長の崎野寿子さん(46)は介護士として働いていたが、看護師の知識や技術が必要だと考え、自身のスキルアップのために看護学科に入学。最初の2年間は働きながら、最後の1年間は仕事を辞めて勉強に集中し合格をつかみ取った。「先生たちが熱心に指導してくれて、家族の支えも大きかった」と崎野さん。「地域に貢献できるように、支えてくれた人々に恩返しができるよう頑張りたい」と誓う。

男子学生4人のうち上藤俊輔さん(30)は20歳から准看護師として働いていたが、症状が比較的安定している患者が入院する慢性期病棟の担当から、病気の経過が早い患者を相手に素早い判断や迅速な対応が求められる急性期病棟に異動になったことを機に「知識が足りない」と一念発起して入学。国家試験合格を知った瞬間は「言葉にならなかった」とし、支え合った男子仲間、とハイタッチして喜び合った。今後に向けて「(現場では)まだまだ学ぶことは多いが楽しみ。職場に貢献できるよう励みたい」と語った。

担任教員の館坂恵さんによると3年生は在学中、新型コロナウイルス禍によりさまざま制限を受けた上、今年は試験の出題基準も変わり苦労が多かった。その中で「欠席もなく、よくついてきてくれた」とたたえた。

校長の澤田美彦医師会長は「看護師は人を相手にする職業。難しさを感じて途中で辞める人もいる中で『看護師になろう』という強い気持ちがあって全員の合格があった」と笑顔。加えて、卒業生36人中34人が県内就職し、大半が津軽地方の病院などで勤務を始める。地域の医療を支える人

材となることに「地域で働いてくれることが何よりも素晴らしい」と目を細めた。看護師国家試験の合格率はこのほか、弘前大学医学部保健学科看護学専攻と国立病院機構弘前総合医療セ

ンター附属看護学校がとに2年連続で100%だった。